

志賀原子力発電所 マンスリーレポート（2026年1月分）

2026年2月10日
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所の事故・故障等の情報および運転保守情報（2026年1月分）を、下記の通りお知らせいたします。

記

■ 事故・故障等の情報

該当する事象はありませんでした。

■ 運転保守情報

○連絡区分Ⅰ

該当する事象はありませんでした。

○連絡区分Ⅱ

該当する事象はありませんでした。

○連絡区分Ⅲ

志賀原子力発電所2号機 平均出力領域モニタの不具合について（別紙参照）

以 上

別紙：志賀原子力発電所2号機 平均出力領域モニタの不具合について

参考資料：志賀原子力発電所 緊急時対策支援システムの伝送停止について（続報）
（12月22日、12月23日お知らせ済み連絡区分Ⅲ事象の続報）

（参考）

事故・故障等の情報

法令・安全協定等に基づき、国、石川県、志賀町等関係自治体に連絡しているもの

運転保守情報

法令および安全協定には該当しないが、連絡基準覚書等に基づき石川県、志賀町等関係自治体に連絡しているもの

連絡区分

連絡基準覚書（石川県、志賀町との間で締結した「志賀原子力発電所における石川県・志賀町への連絡基準に係る覚書」）で定める区分

連絡区分Ⅰ：直ちに連絡が必要なもの

連絡区分Ⅱ：区分Ⅰよりも緊急性の程度は低い、速やかな連絡が必要なもの

連絡区分Ⅲ：保守情報として定期的（原則、翌月10日まで）に連絡することが適当なもの

志賀原子力発電所2号機 平均出力領域モニタの不具合について

志賀原子力発電所2号機（第3回定期検査中）において、2026年1月10日（土）9時47分、平均出力領域モニタ※¹（A）の異常を示す警報が発生しました。

制御盤等の状態を確認したところ、平均出力領域モニタ（A）にて、一部の出力領域モニタの信号が処理されていないことを確認しました。

調査の結果、平均出力領域モニタ（A）の一部の電源装置に不具合があることを確認したことから、当該電源装置を予備品と交換し復旧しています。

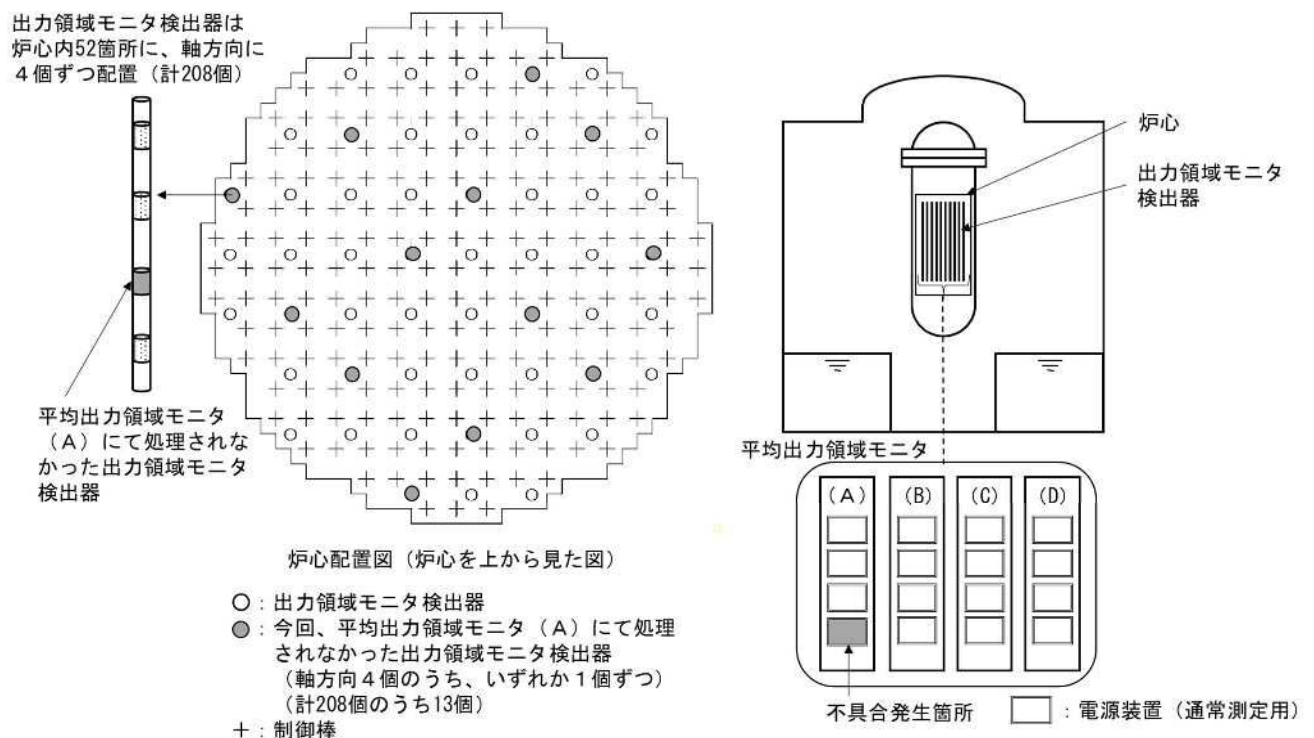
本事象発生時、原子炉内に燃料はなく、平均出力領域モニタによる監視が必要な状態ではありませんでした。なお、原子炉を起動し、平均出力領域モニタによる監視を開始した後、平均出力領域モニタ4チャンネルのうち、1チャンネルで不具合が発生しても、残りの3チャンネルで監視可能※²であり、安全上問題はありません。

なお、外部への放射能の影響はありません。

※1 平均出力領域モニタ（APRM：Average Power Range Monitor）

炉心内52箇所に、軸方向に4個ずつ配置された出力領域モニタ（運転時の炉心の出力を部位毎に測定する装置）の信号を平均化する機器で、全部で4チャンネル（（A）～（D））ある。

※2 原子炉施設保安規定にて、平均出力領域モニタ4チャンネルのうち3チャンネルで監視することを許容している。



平均出力領域モニタ 概要図

志賀原子力発電所 緊急時対策支援システムの伝送停止について（続報）

12月22日15時59分、志賀原子力発電所1、2号機において、国の緊急時対策支援システム※¹（以下、「ERSS」）へのデータ伝送が停止しました。

発電所設備に異常等はなく、中央制御室でプラント状態を通常通り監視できており、原子力発電所の安全性に問題がないことを確認しています。

また、伝送が停止している間、ERSSにて伝送要求のあるパラメータ※²については、適宜、メールなどにより国に報告しております。

なお、石川県、富山県及び当社のホームページにて公表している環境放射線等※³の発電所リアルタイム表示は、正常であることを確認しております。

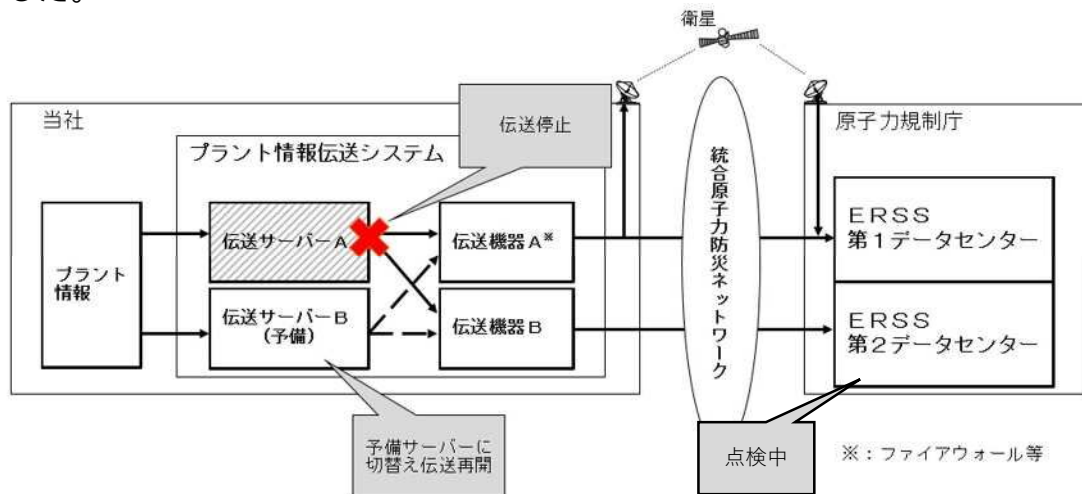
本事象による外部への放射能の影響はありません。（12月22日お知らせ済み）

その後、伝送に係る機器の通信状態の確認等を行い、伝送サーバーを予備に切替えたことにより、12月23日0時19分に、データ伝送を再開しました。（12月23日お知らせ済み）

調査の結果、伝送サーバーに異常は確認されず、同サーバー内のメモリに送信エラーデータが蓄積し、伝送処理に必要なメモリが不足したことが原因と推定しています。

この送信エラーデータは、同日実施された国のERSS点検※⁴に伴い、ERSS側の受信が停止している間も当社からのデータ送信を継続したことにより、蓄積したものです。

従来、伝送サーバー点検の都度、メモリの初期化を実施しておりましたが、今回の事象を踏まえ、メモリ内へのデータ蓄積を伴う作業が実施される場合は、メモリの初期化を実施することとし、メモリの初期化の頻度を高めるとともに、ERSSへの伝送が停止した場合の対応手順書を整備し、速やかに伝送を再開できるようにするなどの対策を講じました。



緊急時対策支援システムへのデータ伝送 概要図

※1 緊急時対策支援システム（ERSS：Emergency Response Support System）

原子力施設から常時伝送されるプラントパラメータ情報を受け、原子力施設の状況を把握するための原子力規制庁のシステム

※2 原子炉水位、原子炉圧力、炉水温度、原子炉格納容器圧力・温度、モニタリングポスト、排気筒モニタ、発電機出力、所内電源の電圧、主要なポンプ・弁の作動状況など

※3 モニタリングポスト、排気筒モニタ、発電機出力など

※4 2系統あるERSSのうち1系統のデータ受信を計画的に停止して実施した点検